



鎌倉ケアマネ連絡会は、介護保険発足と同時に設立しました。

「かまくら地域介護支援機構」内の組織として地域福祉、医療連携、他職種連携等、行政と連携して行っております。現在会員は、市内を中心に 80 事業所、約 180 名の会員規模となっております。

研修部会、広報部会、調整・検討部会の 3 つの部会で構成されており、年間 6 回研修、同一組織内にある、通所連絡会・訪問介護連絡会と協働しての研修、市内の他機関との連携会議等開催しております。また、会員に向けての情報収集や提供の為に、広報誌の発行、タイムリーな情報提供の為に、かわら版の発行、研修レポート、ホームページでの情報提供を行っております。

昨今「地域共生社会」と言われている中、いわゆる専門職間との顔の見える関係に留まらず、あらゆる異業種等との連携を課題とし、日々実践に繋げています。

鎌倉ケアマネ連絡会 代表 佐藤 秀之

ケアマネ通信

目次

- !! 第 17 回神奈川県介護支援専門員研究大会を振り返って 2
- !! 委員会活動紹介 3
- !! 初の本協会理事選挙 3
- !! 定期総会の予定 3
- !! 世界から発信されている認知症ケアを学ぶ！ NO.2 4
- !! ケアマネリレーコラム 7
- !! 歴史こぼれ話～五～ 7
- !! 編集後記 8
- !! インフォメーション 8
- 「北海道胆振東部地震災害支援募金」のお礼及びご報告 8
- 「会員の皆様への重要なお知らせ！」 8
- 「神奈川県のホームページ」活用しよう 8

第17回神奈川県介護支援専門員研究大会を振り返って

研究大会運営委員会 委員長 加藤 由紀子

さがみはら介護支援専門員の会との共催で平成31年2月16日(土)天候にも恵まれ、相模原市中央区の相模原市立産業会館で、約170名の参加者のもと研究大会が開催されました。

大会テーマは「縁・援・円～吹きつけ！さがみの風～」です。

3つの「えん」は人と人との縁や繋がり・介護支援専門員の支援や地域住民等からの様々な形の支援・仲間や関係者が手をつないで円陣を組むなどです。

そして今回の基調講演は「成年後見制度と意思決定支援」を社会福祉士でもある弁護士の中村良正氏から成年後見制度における自己決定の尊重の理念や、意思決定支援のあり方(厚生労働省「認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドライン」平成30年6月)を参考に講演していただきました。また、シンポジウムでは「生き方、住まい方、暮らし方を決めるとき」をテーマにシンポジストそれぞれの立場から意思決定支援を考えてみました。

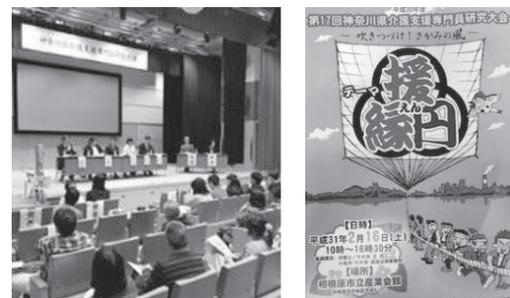
私たちケアマネジャーは日頃から「本人の意思決定」に関わっていますが、もしかすると、家族の意向に沿った支援ではないのかなど、専門職として意思決定支援を考える研究大会でした。

今回の研究大会を迎えるにあたり、運営委員会が約10ヶ月、相模原市で毎月行われ、運営委員の皆様や当日のスタッフの皆様、一人一人のご理解、ご協力から無事当日を迎えることができました。特にさがみはら介護支援専門員の会の団結力や行動力からは、まさに吹きつけ！さがみの風を感じました。

また、大会終了後の懇親会ではさがみはらの委員の皆さんの感動の涙・涙の中、私までもらい泣きでした。

今回のように感動の大きかった大会運営に関わったことに感謝と幸せでいっぱいです。

県協会の皆様、関係者の皆様ありがとうございました！！



委員会活動紹介

■広報・出版委員会

広報・出版委員会は、現在8名の委員で次の活動を行っています。



(Facebook)

1 情報提供・交流事業 (ホームページ、SNSによる情報提供)

本協会ホームページ「ケアマネの森」、Facebookにより、情報提供を行っています。特に、今年度におきましてはFacebookによる活動報告、情報提供に努めてまいりました。今後もさらに「いいね」を増やしていきたいと思えます。

2 機関誌発行业 (広報誌「ケアマネ通信」の発行)

会員の皆様に7月、11月、3月お届けしています。

一般社団法人化に伴い、紙面をリニューアルしました。1面は、毎号協力会員である地域組織のご紹介をしています。また、第5号から「ケアマネリレーコラム」を毎号掲載することになりました。ケアマネジャーとしての苦労話やほっこりする話題など、会員の皆様でつなぐコーナーです。ぜひ出てみたいという方は事務局までご連絡ください。

3 出版事業 (パーフェクトガイドの発刊、その他)

2004年より、中央法規出版株式会社から発刊されているケアマネ受験生の必読本「ケアマネジャー試験過去問「一問一答パーフェクトガイド」」に編集協力しています。

また、今年度は、2019年6月発刊の予定で、「ケアマネトラブル事例集」の執筆、編集を行っています。この事例集は、新日本法規出版株式会社からの依頼で、協力会員の皆様から寄せられた実際のトラブル事例69件を集め、編集委員会で、ポイントと解説、アドバイスを書き加え、さらに本協会の顧問である中村良正弁護士の監修をいただきました。

これからも、会員の皆様にたくさんの情報をお伝えしていきます。また、委員会のメンバーも随時募集していますので、よろしく願いいたします。

広報・出版委員会 委員長 石橋正道



初の本協会理事選挙

一般社団法人化してから初めて行われた理事選挙は、平成30年12月19日告示、平成31年1月31日に締め切られました。今回の立候補者は、定数の30名を超えなかったため、投票は行われず、平成31年6月8日の総会における承認となります。

是非総会にご出席いただきまして、新体制発足に立ち会ってください。



定期総会の予定

日時 2019年6月8日(土)

13:30~(予定)

会場 横浜情報文化センター6階
情文ホール

(中区日本大通11番地)

会員の皆様には追ってご通知いたします。

世界から発信されている認知症ケアを学ぶ！ No.2 アメリカ・ポートランドから

神奈川県認知症ケア専門士会 会長
東京医科歯科大学大学院 非常勤講師
遠藤 慶子

前回のケアマネ通信では、アメリカの認知症国家戦略や現状の認知症ケアについての研究結果から明らかになった修正可能な9つの危険因子について報告した。今回は具体的なケアについて説明する。介護支援専門員も認知症のケアについてより深く学ぶ必要がある。

最新の認知症のケアについて考えよう！

認知症になるとコミュニケーションがうまく取れないことを経験している人も多いだろうが、どうしてそうなるのかを察することが重要である。例えば認知症の人がやり残したことや成し遂げられなかったことがあった場合に、どのように表現したいのかを想像してみよう。その人が何をどの程度やり残したのか？どうすればどのくらい時間があれば終わるのか？終わらなかった事を最後までやりたかったのかを私たちは考えた事があるだろうか？認知症の人はそれを言葉でうまく表現できなかつたり忘れてしまう。そこでフラストレーションがたまり、行動(暴言・暴力等)に現れることがあるという。つまり自分ではもはや明確に考えをまとめることができなくなり対処することができなくなり、その不快感を言語で表すことが難しくなるのだという。このことを理解することがパーソン・センタード・ケア^{*1}になる。

※1パーソン・センタード・ケア

パーソン・センタード・ケアとは、認知症をもつ一人の「人」として尊重し、その人の立場に立って考え、ケアを行おうとする認知症ケアの一つの考え方である。この考え方は、自然科学や神学を修めた後に老年心理学教授となったトムキットウッドが、1980年代末の英国で提唱した。

次に具体的に認知症の人にはどのようなアセスメントが必要になるのかをみる。

1) 詳細にその人の情報を集めて、カルテに記載する。

- ①今までどのような暮らしをしてきたのか(生活歴)
- ②まわりで“おかしい!”“変だ!”<特異>と思われている行動が意味するもの(きっかけ)を人から聞くのではなく自分でも考えてみる
- ③その人の好むものがなにかを知る
- ④口腔環境の把握をする
- ⑤今身体に痛みがあるのかどうかを知る
- ⑥現病について知る
- ⑦認知症の状態で「できなくなっていること」や「今のできること」を知る
- ⑧服薬(どんな薬をどのようにして服用しているのか)を知る 等

2) その人の行動を把握する

身体の痛みや不快感等を専門職が把握すること重要になる。

以下の点に関して行動を再点検する。

- ①今行っている行動の意味について考える
- ②潜在的なものや根本的な原因があるかどうかを探る
- ③特異なことがどの時に起きるのかを調べる
- ④特異なこととはどの程度のものなのかを具体的に理解して話せる
- ⑤忘れられない出来事があるのかを知る
- ⑥環境トリガーについて考えてみる
- ⑦注意力などに関連しているものなのかどうかを調べる

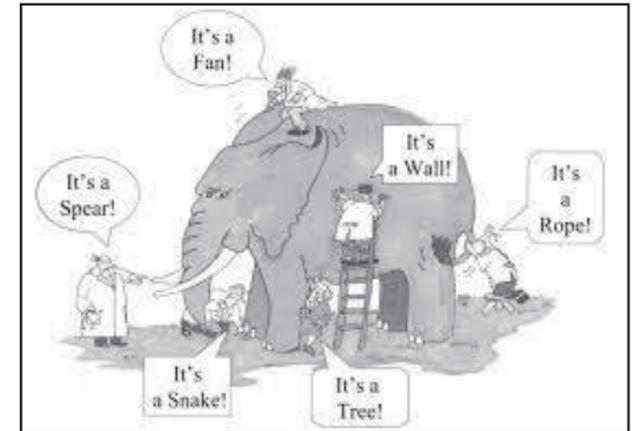
①から⑦までの行動内容が把握されたら、その原因の特定をすることができる。

3) チームアプローチの必要性

個々だけを見ては全体像が分からない。そのためには多面的な角度から見た意見が必要となるという。下記の象の図をみてみよう。

この図を見たA～Fの人の意見である。
大きな象をそれぞれ見た部分が違っている。

- Aさんは耳の部分を見た。
- Bさんは胴体を見た。
- Cさんはシッポを見た。
- Dさんは足を見た。
- Eさんは鼻を見た。
- Fさんは牙を見た。



そこで色々な意見が出てきた。

It's a Fan! : 「これはうちわ(団扇)です！」

It's a Wall! : 「これは壁です！」

It's a Rope! : 「これは丈夫なロープです！」

It's a Tree! : 「これは木です！」

It's a Snake! : 「これは蛇です！」

It's a Tree! : 「これは槍です！」

団扇	→	象の耳
壁	→	象の胴体
ロープ	→	象のシッポ
木	→	象の足
蛇	→	象の鼻
槍	→	象の牙

A から F の 7 人の意見は自分の見たところのみで判断した結果である。それぞれの意見を集め総合的に見て初めて“象”だとわかる。

4) “点”が“線”になる時が重要になる

人の行動はランダムに起こっていると見えるかもしれないが、いろいろな情報（点）を追跡し傾向をみていくと“行動パターン”が見え始める。トリガーや早期の警告や満たされていなかったことが線となってつながることを忘れてはならない。

5) ケアプランの作成とモニタリングについて

1) から4) までの行動表現が把握されたら、その詳細とそれに対する介入方法と期待される反応を考える。行動に対し多大な効果があるかをみるためにはケアプランに具体的な目標をモニタリングができるようにする。

6) 服薬について

服薬については注意をして行う。認知症の人にとって服用が何故必要なかを明らかにし、予想される結果についても把握する。1 回の投薬量とその服薬期間を確認する。有効性とその副作用についても知る。

7) 従来のケアとこれからのケアの比較について

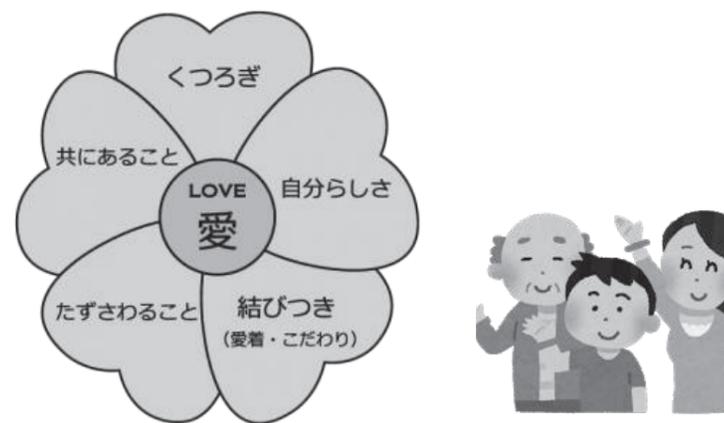
今までのケアについて考えてみよう。スタッフは介護者の判断によってその人が認知症であること知った。そこでスタッフは認知症に関するアセスメントが適していると考えそれに従ってケアプラン作成した。そのケアプランは本人抜きで作成されてきた。また施設のルールも重要視されて作成された。

これからのケアについては、介護者は本人・家族と信頼関係を築く事が重要になる。そこで本人が望むケアプランを作成する。

<ケアプランは一人称“I”のフォーマットで書くようにする>

このように考えると在宅でも施設でも今までの生活が継続されることを基本とする。またケアカンファレンスも本人そして家族の意向でも開催される。

日本でも在宅より施設、本人より家族やスタッフ中心に行われてきたケアから本人中心のケアが求められている。しかし実際に介護支援専門員の私たちは上記のような“詳細なアセスメント”や“一人称でのフォーマット”用いた記述を徹底的にやってくるだろうか？と考えると疑問が残る。また今行っていることが何故必要なのか今後予測できる事はどのようなことなのかを丁寧に紐解いていくことがますます重要になってきている。



パーソン・センタード・ケアの図



ケアマネリレーコラム

～神奈川県で働くケアマネジャーが日々思ったことなどを綴っていきます～



そらいろケアプラン 管理者 主任介護支援専門員 青地 千晴

会員の皆様、こんにちは！本会の理事長の青地です。日頃は鎌倉市で、居宅のケアマネジャーとして勤務しております。事務所は、大仏に近い場所にあり、訪問も観光地で渋滞などがあるため、スクーターで、雨の日も風の日も走り回っております。基礎資格は看護師で、ケアマネジャーになったのは、平成13年。ケアマネジャーになったばかりの頃は、一人ケアマネで、教えてくれる先輩もなく、右も左もわからず、「フェイスシート」って何ですか？といったレベルの状態でした。ケアプランを立てるにも、地域の事業所が全く分からないので、片端から事業所を訪ね、挨拶周りや見学をさせてもらい、市役所の介護保険課にも、毎日のように通い、必要な申請書類などを教えてもらいました。ショートステイの予約の仕方がわからず、特養に出向き、相談員さんに、直接「どうやったら、ショートステイが使えるんですか？」と聞きに行き、手続きをする状態でした。また、当時の「居宅サービス計画書」は、今思えば完全に「看護計画書」になっていましたね。(笑) 一人ケアマネで、誰も教えてもらえる先輩がいなかつ

たので、本を読んだり、研修に参加しては、必死に勉強をしました。そんな中で、鎌倉のケアマネ連絡会の役員に誘って頂き、いろいろ相談できる仲間も増え、独立することができました。経験年数を重ねるごとに、困難事例を担当する機会が増えていきましたが、いつも助けてくれる行政や包括、事業所や施設等、たくさん協力してくれる方々が増えていき、困難事例を担当しても、自分一人で抱え込むことは、ないことが、一番ありがたいことであり、この鎌倉のネットワークが無ければ、私はケアマネとしての仕事は出来ないと思っています。日々、事業所の方々に感謝しながら、今年も、少しでも地域に貢献出来たらいいなと思っています。

今回は、小田原市オギクボ薬局の山本玲子さんにバトンタッチ！



歴史こぼれ話 ～五～

戦国時代に一代で中国地方の覇者となった毛利元就は、生涯お酒を飲まなかったといわれています。

祖父、父、兄の三人がお酒の飲みすぎで命を失っていたからです。元就は長男の隆元に、お酒で気晴らしをすることなどあってはならない、と諫めています。

また孫の輝元の元服後には、その母親に、お酒は小さな器で一、二杯程度にとどめるように、と手紙で忠告しています。

お酒を慎むことを家訓とした元就でしたが、家臣をもてなす際に上戸には、酒ほどよいものはない、と言ってお酒を勧めました。また下戸には、



酒ほど悪いものはない、と言って餅を振る舞いました。このことから元就が人心掌握の術に長けていた事がわかります。

健康に気を配っていた元就は、当時としては長命で75年の生涯を閉じました。

(騒人)

編 集 後 記

オリンピックもいよいよ来年に迫り、平成もいよいよ残すところあと僅か。変化・進化が感じられる今日この頃。平成になって31年、皆さんの周りにはどんな変化がありましたでしょうか。私自身、社会人になり、介護職の世界に身を投じ、20数年が経ち、ケアマネジャーの資格を取得してからも干支が一回りして、介護保険というものが、仕事のフィールドというだけではなく、保険料を納める側になりました。給与明細を眺めながら、違った意味で当事者になった感を実感し、ちょっぴり懐具合を気にするようになり・・・。

2000年にスタートしたこの介護保険制度も、様々な紆余曲折を経て、成人式間近、「自立支援」と日常的に言いつつ、私たちケアマネジャーの自立度合いはどんな感じなのかなぁ？

と若干他人事みたいなことを思いつつ・・・。
皆さんはどのように感じていますか。

たくさんの仲間が積み上げてきた実績は確かなものがあるはずと思いつつ・・・。私自身、広報という形で、主に広報誌の編集や研究大会等の取材などで、会の活動に僅かながら関わらせて頂いている中で、たくさんの熱い思いと、その実践を間近に見てきました。でも、その反面、特に自分自身に置き換えてみると、まだまだな部分をたくさん感じており・・・。

でもそれはケアマネジャーとしての更なる可能性として、この変化・進化の著しい中で、置いてきぼりにならないように、振り返りのきっかけにし、ちょっとでも飛躍できるように、新しい元号を前向きに迎えたいと思っています。
(内)

Information

「北海道胆振東部地震災害支援募金」のお礼及びご報告

本会では、北海道胆振東部地震災害に関しまして、私たちができる被災地・被災者支援として、募金活動を行って参りました。ここにご報告とお礼を申し上げます。

本会からの義援金 100,000 円を日本赤十字社へ皆様からお預かりした募金 12,350 円を北海道介護支援専門員協会へ寄付させて頂きました。

ご協力ありがとうございました。

「会員の皆様への重要なお知らせ！」

会員資格は、年度ごとの自動更新になります。退会のご意向のある会員におかれましては、3月31日までに退会届のご提出をお願い致します。ご提出がない場合、次年度の会費請求の対象となります。また、今年度の会費を未納されている方は、今年度会費ご入金の上で退会となります。

なお、次年度の年会費請求書の送付は4月下旬を予定しております。ご自宅住所やご所属が変更になった場合は、変更届のご提出をお願いいたします。退会届、変更届は本会HPよりダウンロードできます。ご記入の上、FAXもしくは郵送でご提出下さい。

Contact

一般社団法人神奈川県介護支援専門員協会 事務局
〒231-0023

横浜市中区山下町 23 番地 日土地山下町ビル 9 階
TEL 045-671-0284 FAX 045-671-0287

E-mail jimu@caremanager.or.jp

HP <http://www.care-manager.or.jp/>

「神奈川県のホームページ」活用しよう

神奈川県の介護支援専門員のページでは、下記の情報を記載しています。

- ・介護支援専門員の登録等について（登録申請、登録事項の変更、登録の移転等）
- ・介護支援専門員証の交付・更新の手続きについて
- ・介護支援専門員の研修情報（更新研修等）
- ・主任介護支援専門員研修及び主任介護支援専門員更新研修について

◎編集 / 発行
一般社団法人
神奈川県介護支援専門員協会
広報・出版委員長 石橋 正道



Facebook
はこちら↑



ホームページ
ユーザーはこちら↑